

社会民主党機関紙

NO.105
熊本県版

社会新報

THE SHAKAI SHIMPO

2026年秋号 (曜日) 号外

発行所

社会民主党全国連合機関紙宣伝局

週刊(木曜日発行)

〒104-0043 東京都中央区湊3-18-17マルキ熊本ビル5F

電話代表 03(3553)3787・振替 00140-1-3203

●定価185円 ●1ヵ月720円 ●送料168円



「現場の声をダイレクトに国政へ」

橋村りか副党首が

『月刊社会民主』9月号で伝える熊本地震のリアル

再びの熊本震災 — 守るべきは「人」である —

社会民主党副党首、党熊本県連副代表

橋村りか



1. 被害の現状と10年前の災禍の記憶

2026年7月28日に熊本県益城町などを襲った大地震について報告されています。10年前(2016年)の熊本地震の教訓や経験がありながらも、直後の停電・断水・通信障害や道路・公共インフラの甚大な損壊など、再び深刻な被害が生じた実態が述べられています。

2. 支援現場の課題と「制度の隙間」

避難所におけるプライバシーや環境の不備、指定避難所に入れず自宅や車中泊を余儀なくされる人々の存在、障害児・者や要介護者などの「災害弱者」への手厚いケアの不足など、現場で生じている制度・運用の課題が具体的に指摘されています。

3. 「人」を中心とした復興と公助の強化

軍備増強や防衛費拡大へ予算が割かれる国の姿勢を批判し、災害対応や国民の命・暮らし・人権を守る「公助」こそが最優先されるべきであると主張されています。「守るべきは『人』である」という言葉とともに、現場で苦しむ一人ひとりに寄り添い続けることの大切さが強く訴えられています。



『月刊社会民主』9月号掲載

橋村りか副党首の記事紹介と

行動のお願い

党員・支持者の皆様、そして現場の声を大切にされる皆様へ社民党熊本県連合代表の今泉克己です。

『月刊社会民主』2026年9月号に、熊本県連合副代表であり党副党首の橋村りかさんによる緊急報告記事「再びの熊本地震 ― 守るべきは『人』である」が掲載されました。

7月28日に発生した地震により、熊本は再び大きな試練に直面しています。橋村副党首は発災直後から被災現場や避難所、障害者・高齢者支援の拠点へと足を運び、一人ひとりの切実な叫びに耳を傾けてきました。記事には、行政の届かない隙間で苦しむ被災者の実態や、国の「防衛」優先姿勢に対する疑問、そして何よりも「命と暮らし(人)を守る政治」への転換が必要であることが生々しく綴られています。

机上の議論ではなく、現場の声をダイレクトに社会へ届け、政治を動かしていくことこそが機関誌『月刊社会民主』の真価であり、私たちの行動の原点です。

【皆様へのお願い・行動の呼びかけ】

1. 『月刊社会民主』9月号の購読・拡散

ぜひ本号をお手元に取り、橋村副党首の緊急報告をお読みください。そして、ご家族や知人、地域の仲間にご記事の内容を広めてください。



會倒壊した八代神社妙見宮の樺門。(同)

2. 被災者の声に応える現場支援と

対話の拡大

地域の皆様の困りごとや声を県連・党本部へお寄せください。現場の声を国政・地方行政へダイレクトに届け、真の「人優先の復興」を実現するために、共に声を上げていきましょう。

命と暮らしを最優先にする政治を実現するため、皆様の温かいご支援と機関誌活動へのご協力を心よりお願い申し上げます。



社民党熊本県連合代表

今泉克己

月刊社会民主

読者急増中の月刊誌！毎月1日発行

総合誌『月刊社会民主』はタイムリーな特集をはじめ、社民主義についての理論・議論や国内外の政治・社会・文化・運動を幅広く、しかもきめ細かくフォロー。

竹信三恵子さんの「働き手ファーストのつくり方」、大谷昭宏さんの「気ままにひとこと」、佐高信さんの「筆刀両断日記」、雨宮処凛さんの「世界を掴むいくつかの方法」、中沢けいさんの「今月のツイート」、西尾漠さんの「原発診断」、前田朗さんの「人権の現場から」などを好評連載中！

B5判70ページ前後

月刊（毎月1日発行）

購読料は1冊800円（送料＋79円）

購読申込みフォーム

（<https://sdp.or.jp/publicity/>）からのお申込みは、6か月間か1年間とさせていただきます。1部のみ（定価800円）や上記以外の購読期間をご希望の方は、お手数ですが「機関紙宣伝局」まで直接お問い合わせください
社会民主党 全国連合 機関紙宣伝局

TEL：03-3553-3786

kikanshisenden@sdp.or.jp